

日本比較教育学会 第 61 回大会プログラム

Japan Comparative Education Society
The 61st Annual Conference Program

日 時 : 2025 年 6 月 27 日 (金) ~ 29 日 (日)
場 所 : 帝京大学八王子キャンパス
主 催 : 日本比較教育学会
共 催 : 帝京大学

Date: June 27 (Fri.) – 29 (Sun.), 2025
Venue: Hachioji Campus, Teikyo University
Organizer: Japan Comparative Education Society
Co-organizer: Teikyo University

ご挨拶

この度、日本比較教育学会第 61 回大会を帝京大学八王子キャンパスで開催させていただくことになりました。今回は、2019 年以来、5 年ぶりの完全対面開催となります。皆さまを自然豊かなこの八王子の地にお迎えし、直接交流することができ、大変嬉しく思っております。

本大会の会場となる Soratio Square は、2015 年に竣工した帝京大学八王子キャンパスのランドマークです。地上 99.79 メートルの高さを誇り、晴れた日には、美しい富士山の姿をはっきりと見ることができます。公開シンポジウムの会場となるキュリオシティホールは千人収容の大ホールで、映画・ドラマのロケ地としても度々使用されています。

本大会では、ラウンドテーブル 9 件、自由研究発表 142 件、公開シンポジウム、2 つの課題研究を予定しています。このほか、28 日・29 日の昼食時間帯には、学会創設 60 周年記念企画、ブックトーク、若手研究者交流会も行われます。少々慌ただしい日程ではありますが、充実した内容になるものと確信しております。皆様にお楽しみいただけますよう、大会準備委員会一同、精一杯準備に取り組めます。

改めまして、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第 61 回大会準備委員会委員長
山崎直也（帝京大学）

Greetings

It is our great pleasure to welcome you all to Teikyo University's Hachioji Campus for the 61st Annual Conference of the Japan Comparative Education Society (JCES). This will be the first fully in-person conference in five years, since 2019. We are truly delighted to welcome all of you to Hachioji, a city blessed with rich natural surroundings, and to have this opportunity to engage with you all.

The venue for this year's conference, the Soratio Square, is a landmark facility of the Hachioji Campus, completed in 2015. Standing at a height of 99.79 meters, it offers a breathtaking view of Mt. Fuji on clear days. The Curiosity Hall, where the open symposium will be held, is a large auditorium with a seating capacity of 1,000, and is frequently used as a filming location for movies and TV dramas.

This year's conference includes nine roundtable sessions, 142 research presentations, an open symposium, and two selected research sessions. In addition, during the lunch breaks on June 28th and 29th, we will host several special events: an event to commemorate the 60th anniversary of JCES, book talk sessions, and an exchange meeting for young researchers. Although the schedule is a bit tight, we are confident that it will be a highly engaging and rewarding conference. The conference organizing committee is doing its utmost to prepare for the meaningful and enjoyable program for all participants.

Once again, we warmly look forward to your participation in the conference, and we hope to have a fruitful and productive conference.

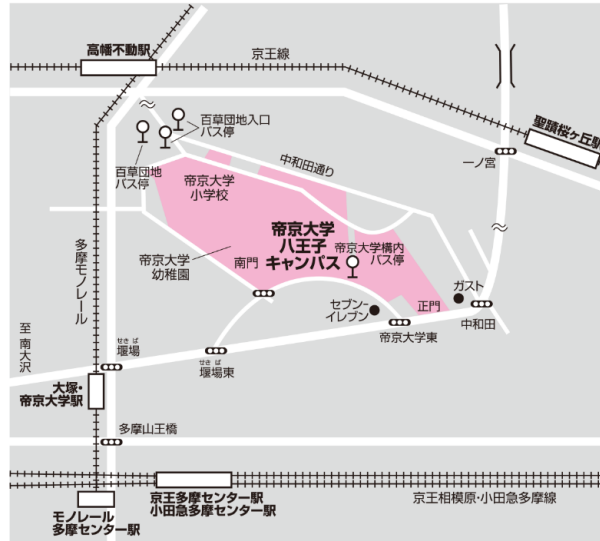
Naoya Yamazaki
Chairperson, JCES 61st Annual Conference Organizing Committee
Teikyo University

目次 Table of Contents

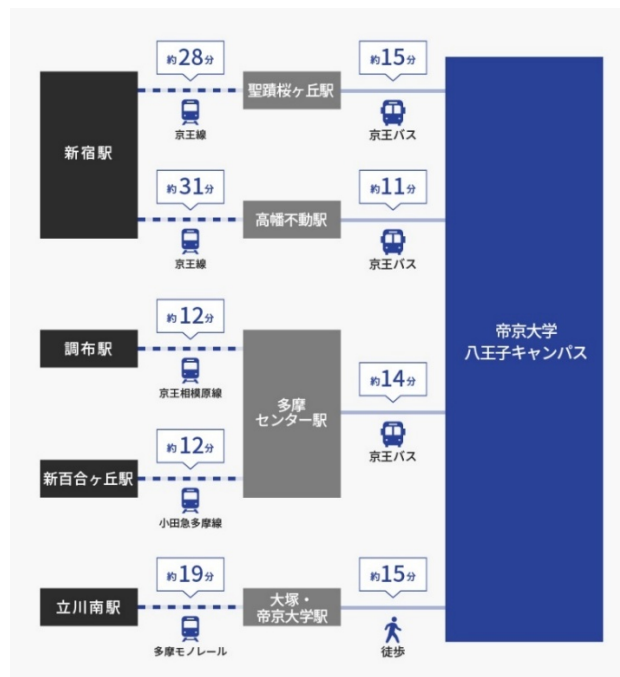
ご挨拶	Greetings	2
目次	Table of Contents	4
会場案内	Venue Information	5
大会日程	Conference Program	10
大会参加者へのご案内	Information for Participants	11
自由研究発表注意事項	For Presenters	15
＜大会プログラム＞		
ラウンドテーブル	Roundtable Sessions	18
自由研究発表 I	Research Presentation Session I	23
60 周年記念企画	Event to Commemorate the 60th Anniversary of JCES	28
自由研究発表 II	Research Presentation Session II	29
公開シンポジウム	Open Symposium	32
自由研究発表 III	Research Presentation Session III	33
ブックトークセッション	Book Talk Sessions	38
若手研究者交流会	Exchange Meeting for Young Researchers	40
自由研究発表 IV	Research Presentation Session IV	41
課題研究	Selected Research Sessions	45

会場案内 Venue Information

帝京大学八王子キャンパスの位置



最寄駅への／からの移動方法と移動時間



※1 一般来場者用駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※2 最寄駅より「帝京大学構内行」バスを利用するなど公共交通機関をご利用ください。

※3 聖蹟桜ヶ丘・高幡不動・多摩センターからのバスの時刻表は、[こちらのページ](#)をご覧ください。

※4 Access to Teikyo University Hachioji Campus (Access and Directions in English)

<https://www.teikyo-u.ac.jp/en/campus/access/hachioji>

キャンパスマップ Campus Map



八王子キャンパス

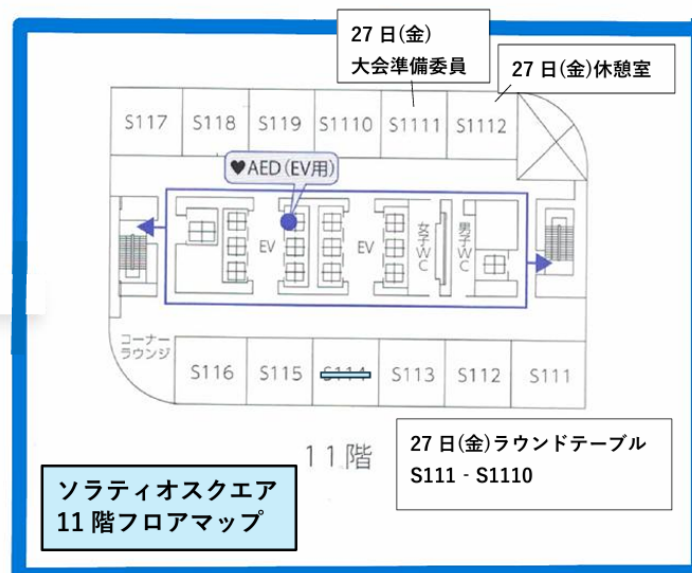
〒192-0395 東京都八王子市大塚359
TEL:0120-508-739(広報グループ)
※フリーコール

- 京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」・「高幡不動駅」/京王相模原線「京王多摩センター駅」/
小田急多摩線「小田急多摩センター駅」/多摩モノレール「多摩センター駅」下車
各駅よりバスをご利用いただけます
- 多摩モノレール「大塚・帝京大駅」下車、徒歩約15分



Soratio Square フロアマップ (11 階)

Soratio Square -11F Floor Venue Layout



Soratio Square –5F Floor Venue Layout



シンポジウム／総会 Open Symposium/General Meeting

6月28日（土）

14:45-16:45	公開シンポジウム	Soratio Square
17:00-18:30	総会	Curiosity Hall

課題研究 Selected Research Session I&II

6月29日（日）

14:50-17:10	課題研究 I	Soratio Square 5 階 S517
	課題研究 II	Soratio Square 5 階 S518

ラウンドテーブル Roundtable Sessions

6月27日（金） 18:00-20:00 会場：Soratio Square 11 階 (11th Floor) S111-113, 115-1110	
RT1 【S111】	【若手ネットワーク委員会（Y-Net）主催】 比較教育学の博士論文を書く
RT2 【S112】	トランスナショナル高等教育の持続性 ー海外分校と国際共同大学を中心にー
RT3 【S113】	教育の質保証システムの社会性を確保する仕組みづくり ー欧米・アセアン諸国の事例との比較ー
RT4 【S115】	東アジアの大学入試改革ー格差是正に向けた取り組みー
RT5 【S116】	諸外国における平和教育カルチャー・マップ ー高校社会科教師による平和教育実践からー
RT6 【S117】	日本における比較教育学の「地層」を考える ー「断面」としての京都大学比較教育学研究室の60年ー
RT7 【S118】	国際教育開発における研究と実務の架橋に関する再帰的検討 ー共著論文の執筆と協働事業の実施ー
RT8 【S119】	Imagined Life Course Constructed through "New Educational Domains" in Contemporary Asia: Edu-business, Private tutoring and Non-state actors
RT9 【S1110】	Balancing Transactional and Relational Collaboration: Headteachers' Role in School Feeding Programs under Uganda's Decentralized Education System

自由研究発表 **Research Presentation Sessions**

6 月 28 日（土） 自由研究発表 I Research Presentation Session I	6 月 29 日（日） 自由研究発表 III Research Presentation Session III
（午前） 9:15-11:45 I-1 東アジア地域（1）【S53】 I-2 東南アジア地域（1）【S54】 I-3 宗教と教育【S55】 I-4 教師教育・教員問題【S56】 I-5 高等教育(1)【S512】 I-6 ヨーロッパ地域【S513】 I-7 国際教育・教育交流【S514】 I-8 English Session (1) Southeast Asia(1)【S515】 I-9 English Session (2) Africa【S516】	（午前） 9:15-11:45 III-1 教育と地域社会【S53】 III-2 初等・中等教育【S54】 III-3 シティズンシップ【S55】 III-4 教育の機会【S56】 III-5 ジェンダーとマイノリティ【S512】 III-6 東南アジア地域(2)【S513】 III-7 開発と教育【S514】 III-8 English Session (5) Teacher Education, Teacher Issues【S515】 III-9 English Session (6) East Asia【S516】
6 月 28 日（土） 自由研究発表 II Research Presentation Session II	6 月 29 日（日） 自由研究発表 IV Research Presentation Session IV
（午後） 12:35-14:35 II-1 東アジア地域（2）【S53】 II-2 高等教育（2）【S54】 II-3 幼児教育【S55】 II-4 教育行政・教育経営【S56】 II-5 北アメリカ地域【S512】 II-6 English Session (3) Primary and Secondary Education【S513】 II-7 English Session (4) Education and Economics【S514】	（午後） 12:35-14:35 IV-1 紛争と教育【S53】 IV-2 職業・技術教育【S54】 IV-3 多文化教育【S55】 IV-4 高等教育(3)【S56】 IV-5 南アジア地域【S512】 IV-6 アフリカ地域【S513】 IV-7 English Session (7) Southeast Asia (2)【S514】 IV-8 English Session (8) Citizenship【S515】

大会日程 Conference Program

	6月27日(金)	6月28日(土)	6月29日(日)
8:00			
9:00		8:30~ 受付 Registration	8:30~ 受付 Registration
10:00		9:15-11:45 自由研究発表 I Research Presentation Session I	9:15-11:45 自由研究発表Ⅲ Research Presentation Session III
11:00			
12:00	12:00~ 受付 Registration	11:50-12:30(昼食) 60周年記念企画 Event to Commemorate the 60th Anniversary of JCES	11:50-12:30(昼食) ブクトーク 若手研究者交流会 セッション I & II Book Talk Session I&II Exchange Meeting for Young Researchers
13:00	12:30-14:30 常任理事会 Executive Board Meeting	12:35-14:35 自由研究発表 II Research Presentation Session II	12:35-14:35 自由研究発表Ⅳ Research Presentation Session IV
14:00			
15:00	14:45-17:30 全国理事会 National Board Meeting	14:45-16:45 公開シンポジウム Open Symposium	14:50-17:10 課題研究 I Selected Research Session I 課題研究 II Selected Research Session II
16:00			
17:00		17:00-18:30 総会 General Meeting	
18:00	17:30~ 受付 Registration		
19:00	18:00-20:00 ラウンドテーブル Roundtable Session	18:40-20:30 情報交換会 Information Exchange Meeting	
20:00			

大会参加者へのご案内

1. 受付

大会受付は、6月27日（金）は17時30分から Soratio Square 11 階にて行います。28日（土）・29日（日）は8時30分から、Soratio Square 5 階にて行います。

27日（金）の常任理事会の受付は12時00分から、全国理事会の受付は12時30分から Soratio Square 11 階にて行います。

2. 大会参加費等

大会参加費は、通常会員・臨時会員 5,000 円（早期割引 4,000 円）、学生会員・学生臨時会員 4,000 円（早期割引 3,000 円）、特別会員 4,500 円（早期割引 3,500 円）です。

大会参加申込及び大会参加費の支払いは6月29日（日）正午まで受け付けます。ただし、土曜・日曜は参加申込システムの ID 及びパスワードに関するお問い合わせへの対応はできません。参加申込の手続きはできるだけ早めにお済ませください。

参加申込は、オンライン参加登録システムから手続きをお願いいたします。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JCES>



3. 大会本部

6月27日（金）	Soratio Square 11 階 S1111
6月28日（土）・29日（日）	Soratio Square 5 階 S51

大会当日の問い合わせ先
日本比較教育学会第61回大会準備委員会
E-mail : jces61tu@gmail.com

4. 会員控室

会員控室を自由にご利用ください。

6月27日（金）	Soratio Square 11 階 S1112
6月28日（土）・29日（日）	Soratio Square 5 階 S523

5. 託児室・授乳室等

大学内に託児室は併設しておりませんので、あらかじめご承知おきください。
授乳場所や多目的トイレの利用を希望される方は、受付までお申し出ください。

6. 常任理事会・全国理事会

常任理事会は6月27日（金）12時30分より、全国理事会は6月27日（金）14時45分より、Soratio Square 5階 S522にて行います。開催の詳細については、学会事務局より別途ご連絡いたします。

7. 会期間中の昼食（引換時間 11:00-12:30）

事前予約された方は、Soratio Square 5階 S523でお弁当をお渡しします。受付時に配布された引換券をご持参の上、11:00-12:30の間に引き換えてください。

帝京大学八王子キャンパスには、2軒のコンビニエンスストア（セブンイレブン、ファミリーマート）があります。両店舗とも27日（金）は7時から22時まで、28日（土）は7時から18時まで営業していますが、29日（日）はいずれも営業がありません。ご注意ください。

8. 情報交換会会場

6月28日（土）18時40分より Soratio Square 6階 Soratio Kitchenにて情報交換会を開催します。

9. Wi-Fi 環境

学内ではeduroamの使用が可能です。使用に当たってはご所属先で発行されるIDとパスワードが必要です。接続できない等のトラブルがあっても大会準備委員会ではサポートできません。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

10. 喫煙

八王子キャンパスは現在、1か所の指定されている喫煙場所（北門喫煙所）を除き禁煙です。

11. 駐車場

八王子キャンパスには利用可能な駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

12. 宿泊施設のご案内

本事業は、公益社団法人八王子観光コンベンション協会のMICE開催助成金を活用しております。八王子市内に宿泊して頂くことで助成額が決定されますので、皆様のご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

対象宿泊施設については、<https://hachioji-mice.org/venues/hotel/> をご参照ください。

また、本助成金の申請の一環として、宿泊施設利用情報の提出が必要となっております。つきましては、八王子市内の宿泊施設をご利用の方は、大会前または大会期間中に、お名前、ご所属先、お住まいの都道府県、ホテル名、宿泊日と宿泊数のご提供を以下のGoogle Formsよりご入力頂きたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

八王子市内宿泊施設利用情報提供のお願い：<https://forms.gle/puw8DKU5xzfCYKSh7>

Information for Participants

1. Registration

The reception desk will be open from 5:30 p.m. on Friday, June 27th, on the 11th floor of the Soratio Square, and from 8:30 a.m. on Saturday, June 28th, and Sunday, June 29th, on the 5th floor of the Soratio Square.

On Friday, June 27th, the reception desk for the Executive Board Meeting will be open from 12:00 p.m. and the reception desk for the National Board Meeting will be open from 12:30 p.m. on the 11th floor of the Soratio Square.

2. Annual Conference Registration Fee, etc.

The registration fee is 5,000 yen for regular and temporary members (early bird discount of 4,000 yen), 4,000 yen for student members and temporary student members (early bird discount of 3,000 yen), and 4,500 yen for special members (early bird discount of 3,500 yen).

Applications for participation in the conference and payment of the conference registration fee will be accepted until noon on June 29 (Sun.). However, we will not be able to respond to inquiries regarding IDs and passwords for the registration system on Saturdays and Sundays. Please complete the registration procedure as soon as possible.

To register, please use the online registration system.

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply_eng/JCES



3. Conference Headquarters

June 27th (Fri.): S1111 (The 11th floor of the Soratio Square)

June 28th (Sat.) and 29th (Sun.): S51 (The 5th floor of the Soratio Square)

Contact information on the day of the Annual Conference:

The 61st JCES Annual Conference Organizing Committee E-mail: jces61tu@gmail.com

4. Members' Lounge

Please feel free to use the members' lounge.

June 27th (Fri.): S1112 (The 11th floor of the Soratio Square)

June 28th (Sat.) and 29th (Sun.): S523 (The 5th floor of the Soratio Square)

5. Nursery

Please note that there is no child-care facility on campus.

If you would like to use a nursing area or multi-purpose toilet, please contact the reception desk.

6. Executive Board Meeting, National Board Meeting

The Executive Board Meeting will be held on Friday, June 27th, from 12:30 p.m., followed by the National Board Meeting at 2:45 p.m., both in Room S522 on the 5th floor of Soratio Square.

The details of the meetings will be announced separately.

7. Lunch during the Annual Conference

For those who have pre-ordered a lunch box, it will be available for pick-up in Room S523 on the 5th floor of Soratio Square between 11:00 a.m.-12:30 p.m. Please bring your voucher you were given at the reception desk.

There are two convenience stores (Seven-Eleven and Family Mart) on the Teikyo University Hachioji Campus. Both stores are open from 7:00 a.m. to 10:00 p.m. on Friday the 27th and from 7:00 am to 6:00 p.m. on Saturday the 28th, but neither will be open on Sunday the 29th.

8. Information Exchange Meeting

An information exchange meeting will be held on Saturday, June 28th, from 6:40 p.m. at the Soratio Kitchen located on the 6th floor of the Soratio Square.

9. Internet Access on Campus

You can access the eduroam wireless network on campus. Please prepare the ID and password issued by your institution. The Committee will not be able to assist you with network problems.

10. Smoking

Smoking is not permitted on the Hachioji Campus except for one designated smoking area.

11. Parking lot

There is no parking lot available on campus. Please use public transportation.

12. Accommodation Information

This conference is supported by the Hachioji Convention & Visitors Association's subsidy for MICE events. The subsidy amount will be determined based on the number of nights the participants stay in Hachioji City, and therefore we kindly ask for your cooperation in this regard.

For accommodation information, please refer to this link: <https://hachioji-mice.org/venues/hotel/>

As part of the subsidy application process, we also need to collect your accommodation use information. Thus, if you are staying at accommodation in Hachioji City, please provide us with your name, affiliation, residential prefecture, hotel name, dates of stay, and number of nights using the Google Forms below.

Request for accommodation use information in Hachioji City: <https://forms.gle/puw8DKU5xzfCYKSh7>

自由研究発表注意事項

1. 発表時間

個人研究発表：発表 20 分、質疑 10 分（計 30 分）

共同研究発表：発表 20 分、質疑 10 分（30 分の場合）

発表 40 分、質疑 20 分（60 分の場合）

各部会での総括討論はありません。発表者も自由に移動していただいて結構です。なお、各発表の間には休憩時間を設けておりませんので、ご注意ください。司会者の方には、質疑時間の有効な活用をお願いいたします。

2. 発表資料

発表の際に配布する資料は、あらかじめご用意の上、各会場係にお渡しください。会場係が配布いたします。なお、会場でのコピーのご要望には応じられませんのでご了承ください。

3. 発表用機器

パソコンとプロジェクタを会場に設置しております。ご自身のパソコンをご使用になりたい方は、発表開始前に司会にお伝えください。なお、会場のプロジェクタは基本的に HDMI にしか対応しておりませんので、端末接続時にコネクタが必要な場合は各自でご準備ください。

4. 発表取り消しの場合

発表取り消しの場合、速やかに大会準備委員会にご連絡ください。なお、発表取り消しの場合でも発表時間の繰上げは行いません。

日本比較教育学会第 61 回大会準備委員会 E-mail : jces61tu@gmail.com

For Presenters

1. Presentation time

Individual research presentation:

20 minutes for presentation, 10 minutes for Q&A (total 30 minutes)

Joint research presentation:

20 minutes for presentation, 10 minutes for Q&A (in case of 30 minutes)

40 minutes for presentation, 20 minutes for Q&A (in case of 60 minutes)

There will be no summary discussion at the end of the session. You may move on to other sessions after your presentation. Please note that there will be no break between presentations. Moderators are requested to make effective use of the question-and-answer period.

2. Presentation materials

Please prepare the materials to be distributed at the time of your presentation in advance and hand them over to the respective room staff. The staff member will distribute them to the participants. Please note that we will not be able to make photocopies at the venue.

3. Presentation equipment

Computers and projectors are available at the venue. If you wish to use your computer, please inform the moderator before the start of your presentation session. Please note that the projector in the venue is generally compatible only with HDMI. If you require any connectors for device connection, please make sure to bring them with you.

4. Cancellation of the presentation

In case you cancel your presentation, please contact the conference organizing committee as soon as possible. The timetable of the session would not be changed even if you cancel your presentation.

The 61th JCES Annual Conference Organizing Committee

E-mail : jces61tu@gmail.com

大会プログラム

【若手ネットワーク委員会(Y-Net)主催】

比較教育学の博士論文を書く

企画者・発表者：八木 歩（神戸大学） 鴨川 明子（早稲田大学）
発表者：宮村 侑樹（大阪大学大学院） 松田 華織（神戸大学大学院）
田島 夕貴（東京大学） 今泉 尚子（早稲田大学大学院）
須藤 玲（東京大学） 橋本 拓夢（広島大学大学院）
守谷 富士彦（四天王寺大学） 吉田 翔太郎（山梨大学）
神内 陽子（名古屋大学） 小川 未空（大阪経済大学）
丸山 英樹（上智大学）

コロナ禍でフィールド調査や対面交流が制限された大学院生は、どのように研究スタイルを確立し、研究者としての経験を積み、博士論文に向き合ったのだろうか。さらにポストコロナの急速なICT・AIの発展の中で、大学院生はどのように研究を着想し、調査手法を工夫し、博士論文に取り組んでいるのだろうか。本ラウンドテーブルでは、「博士論文を書く」をテーマに、1) 博論執筆中の学生、2) 博論を書き終えた若手研究者、3) 働きながら博論に取り組んだ研究者、4) 博論を書籍化した研究者、5) 博論指導にあたる教員という多彩な視点から実体験や工夫、挑戦を共有する。その後、参加者全員で自由な意見交換を行い、議論を深めるとともに、コロナ禍に発足した若手ネットワーク委員会がポストコロナ時代に期待される新たな役割を模索したい。

トランスナショナル高等教育の持続性

ー海外分校と国際共同大学を中心にー

企画者・発表者：上別府 隆男（福山市立大学）
発表者：黒田 千晴（神戸大学） 塚田 亜弥子（香川大学） 吉岡 香奈（東京大学大学院）

トランスナショナル高等教育(教育プログラムと教育プロバイダーの国際移動)の一角をなす、海外分校(外国分校)(International Branch Campus: IBC)と国際共同大学(International Joint University: IJU)を取り上げる。IBCとIJUは設置、拡大、あるいは撤退などをしながら発展をしてきている。また、プロバイダー国でありホスト国である国(マレーシア、インド、中国など)や新たなハブの出現、3年に及んだコロナ禍が引き起こした移動制限の中で自国での学習を特徴とするIBC・IJUが再評価を受け、新たな留学機会として認知が進んだことなど、様々な出来事や要因により大きな変容を遂げてきている。本ラウンドテーブルでは、中国、エジプト、韓国、日本の事例の報告を元に、参加者とともに、IBCとIJUの持続性を探りたい。

教育の質保証システムの社会性を確保する仕組みづくり
－欧米・アセアン諸国の事例との比較－

企画者・発表者：林 透（金沢大学） 和氣 太司（公益財団法人医学教育振興財団）
大関 智史（宮崎大学） 我妻 鉄也（千葉大学）

日本の認証評価制度は大学関係者の内側に閉じ、その評価結果について、社会的な認知度や有用性が低いと捉えられている。このことは、大学側の評価疲れにも繋がり、一種の悪循環を生んでいる。欧米・アセアン諸国の事例との比較を通して、学术界や産業界と連携した教育の質保証システムの仕組みづくりの工夫や対応方策について考える。

東アジアの大学入試改革
－格差是正に向けた取り組み－

企画者・司会者：小川 佳万（広島大学）
発表者：小野寺 香（奈良女子大学） 朴 聖希（広島大学）
石井 佳奈子（立正大学） 内田 直義（就実大学） 出羽 孝行（龍谷大学）

東アジアの各国・地域では一貫して大学入試に対する社会的関心が高く、近年は特に制度改革が大胆に進行している。その具体的な方策は各国・地域の文脈のなかで特有な動きを示しているが、そこで常に議論になってきたのは公平性・公正性の問題であり、格差是正に取り組んできたことは各国・地域で共通している。本ラウンドテーブルでは従来から検討してきた中国、韓国、台湾の動向に加えて、アジア圏外であるエジプトとの比較を行い、さらには日本の状況に照らして、各国・地域の入試の方向性を確認する。それにより、東アジアにおける格差問題や公平性・公正性の問題について考えていくことにしたい。

ラウンドテーブル5 Roundtable Session 5 6月27日(金) 18:00-20:00 S116

**諸外国における平和教育カルチャー・マップ
ー高校社会科教師による平和教育実践からー**

企画者・司会者：中矢 礼美（広島大学）

発表者：福留 東土（東京大学） 姜 姫銀（広島大学）

劉 国彬（福山大学） 柿原 豪（新潟医療福祉大学）

郷司 寿朗（広島大学） 田村 絵果（在ボリビア日本国大使館）

Lang Sophat（広島大学大学院）

本企画では、諸外国における高等学校社会科の教員による平和や暴力に関する教育実践を比較検討し、平和教育カルチャー・マップを描くことを試みる。具体的には、教員とのインタビューから、教員らは教科書において平和や暴力がどのように描かれていると認識しているのか、それに対してどのようにどのように考えているのか、授業や生徒指導の中で平和や暴力についてどのように教えているのか、生徒の反応をどのように捉えているのかを描き、その特徴を比較検討する。対象国は、日本、韓国、インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、アメリカ、ボリビア、ニュージーランド、ルワンダである。それらの特徴については、自分たちの平和観に基づいて善悪・優劣として評価するのではなく平和教育カルチャーとして捉え、市民による平和に向けた対話や協働を促す新たな平和教育の構築にむけて議論する。

ラウンドテーブル6 Roundtable Session 6 6月27日(金) 18:00-20:00 S117

**日本における比較教育学の「地層」を考える
ー「断面」としての京都大学比較教育学研究室の60年ー**

企画者：南部 広孝（京都大学大学院） 中島 悠介（大阪大谷大学）

司会者：南部 広孝（京都大学大学院）

発表者：中島 悠介（大阪大谷大学） 石川 裕之（京都女子大学） 工藤 瞳（慶應義塾大学）

関口 洋平（畿央大学） 服部 美奈（名古屋大学）

日本比較教育学会が創設されたのと同じ1965年、京都大学教育学部では比較教育学講座が正式に設置された。それ以来、他講座との合併など組織の位置づけには変化があったものの、4名の教授ー池田進先生、小林哲也先生、江原武一先生、杉本均先生ーを中心に、今日まで継続的に比較教育学における研究活動、教育活動、そして研究者養成が行われてきた。本ラウンドテーブルでは、講座創設60周年を迎えたこの機に、4名の先生方がそれぞれ比較教育学という専門分野をどのように考え、どのような研究を行ってこられたのかを検討することで本講座の研究活動の変遷を振り返るとともに、それを手がかりに、日本の比較教育学研究がどのように積み重ねられてきたのかについて、指定討論者の服部美奈先生や参加者とともに考えてみたい。

**国際教育開発における研究と実務の架橋に関する再帰的検討
ー共著論文の執筆と協働事業の実施ー**

企画者・司会者：橋本 憲幸（山梨県立大学）

発表者：坂口 真康（大阪大学） 川口 純（慶應義塾大学）

本ラウンドテーブルの目的は、その企画者・発表者らが実践してきた国際教育開発における研究と実務のより望ましい関係の再構築に向けた模索の過程を省み、今後の架橋への手がかりを生み出すことにある。事例として、国際教育開発を主題とした共著論文の執筆と探究型学習に関する協働事業の実施の2つを取り上げる。いずれも実務者とのあいだで主として2024年度に取り組んだものである。

**Imagined Life Course Constructed through "New Educational Domains" in
Contemporary Asia: Edu-business, Private tutoring and Non-state actors**

Organizer: Tatsuya Kusakabe (Hiroshima University)

Presenters: Takamichi Asakura (Hiroshima University) Lei Cao (Beijing Institute of Technology)

Tatsuya Kusakabe (Hiroshima University)

Moderator: Kazuhiro Yoshida (Hiroshima University)

This roundtable considers the imagining of a life course-vision, one of the interactions that exist between the 'new educational sphere' (education by companies, NGOs, ODA, etc.) that has emerged in contemporary Asia in the 2000s, and the parents and children who are the clients. In contemporary Asian countries, experiencing rapid economic development, there is a growing recognition of the importance of providing children with a superior quality and higher level of education. The supply side, the 'new educational sphere', is not only providing educational services but also nurturing the next generation of children. This roundtable comprises case studies from Bangladesh (Kusakabe), Indonesia (Asakura), and China (Cao Lei). Prof. Mark Bray (Emeritus, University of Hong Kong) will serve as the discussant at the venue.

Balancing Transactional and Relational Collaboration: Headteachers' Role in School Feeding Programs under Uganda's Decentralized Education System

Presenter: Yoonjung Kim-Hines (International Christian University)

This study investigates how headteachers in Eastern Uganda navigate the complex implementation of School Feeding Programs (SFPs) within the context of Universal Primary Education (UPE) and decentralization policies. While UPE has expanded access to primary education, it has created governance challenges by inadvertently reducing parental involvement in school management despite decentralization policies intended to increase local participation.

A key finding of this research is that effective headteachers demonstrate remarkable skill in balancing transactional leadership approaches with relational trust-building strategies. Contrary to the initial hypothesis that relational trust would predominate in resource-constrained, collectivist contexts, the study reveals a more nuanced reality. Headteachers strategically employ transactional methods—delivering tangible results to gain stakeholder buy-in—while simultaneously cultivating relational bonds through their community connections and sense of obligation to their local areas. This delicate balancing act enables them to mobilize resources and support for SFPs despite challenging structural constraints. Their ability to shift between these leadership modalities according to specific situations and stakeholders emerges as a crucial skill for effective school governance in this context.

Using a mixed-methods sequential explanatory design, the study first surveyed 150 headteachers across Iganga District, followed by in-depth case studies of four selected headteachers. This approach provided comprehensive insights into how headteachers' personal backgrounds influence their leadership approaches, how various stakeholders contribute to SFP implementation, and how headteachers navigate cultural, material, and structural factors that both enable and constrain their agency.

This research significantly contributes to educational leadership literature by challenging binary models that position transactional and relational leadership as opposing approaches. Instead, it demonstrates that in resource-constrained, non-Western contexts, the strategic integration of both leadership styles may be essential for program success.

自由研究発表 I-1 Research Presentation Session I-1 6月28日(土) 9:15-11:45 S53

東アジア地域 (1)

司会 南部 広孝 (京都大学)

- 9:15 - 9:45 中国における小中学校「研学旅行」推進策に関する研究
関 楽平 (九州大学)
- 9:45 - 10:15 中国の 2022 年に告示された『義務教育課程方案と課程基準』における改革の特徴に関する研究
ー学校レベルのカリキュラムグランドデザインと関連してー
野澤 有希 (上越教育大学大学院)
- 10:15 - 10:45 台湾における「校園民主 (学校の民主化)」の定着
ー「黒心校規 (ブラック校則)」をめぐる議論を中心にー
山崎 直也 (帝京大学)
- 10:45 - 11:15 香港の歴史教育の変容に関する考察
ー2010 年代と 2020 年代の中学歴史教科書の分析を通してー
武 小燕 (名古屋市立大学)
- 11:15 - 11:45 返還後のマカオのカリキュラム改革
ー児童生徒に対する評価の在り方に着目してー
日暮 トモ子 (日本大学)

自由研究発表 I-2 Research Presentation Session I-2 6月28日(土) 9:15-11:45 S54

東南アジア地域 (1)

司会 森下 稔 (東京海洋大学)

- 9:15 - 9:45 カンボジア教師教育者の専門性開発の体系化
ープラットフォーム構築の試みー
遠藤 悠華 (広島大学)
- 9:45 - 10:15 マレーシア高等教育における外部質保証と内部質保証の関係性
ー工学教育に焦点を当ててー
林 透 (金沢大学)
- 10:15 - 10:45 日本とベトナムにおける知識外交に関する考察
ーベトナムの視点からー
楊 武勲 (台湾国立暨南国際大学教育学院)
- 10:45 - 11:15 ベトナムにおける大学の郊外移転に関する政府、大学、学生の認識
ー都心キャンパスと郊外キャンパスの役割分化に注目してー
近田 政博 (神戸大学)
- 11:15 - 11:45 ミャンマー連邦共和国におけるクーデター後の高等教育への進学状況の変化に関する研究
牟田 博光 (国際開発センター)

自由研究発表 I-3 Research Presentation Session I-3 6月28日(土) 9:15-11:45 S55

宗教と教育

司会 久志本 裕子 (上智大学)

- 9:15 - 9:45 エジプトでイスラームを学ぶ留学生への予備教育
ーアズハル系外国人学校におけるアラビア語教育に焦点をあててー
内田 直義 (就実大学)
- 9:45 - 10:15 トルコにおけるイマームハティプ校の現状
ー国際化に着目してー
梅津 静子 (筑波大学)
- 10:15 - 10:45 イタリアの公立学校における宗教間対話の実践例
高橋 春菜 (盛岡大学)
- 10:45 - 11:15 タイの小学校宗教教育が育む資質・コンピテンスに関する予備的研究
鈴木 康郎 (高知県立大学)
- 11:15 - 11:45 スリランカにおける宗教教育と普通教育の共存
ー僧院教育・普通教育・地域社会の連携と現代への適応ー
佐藤 美奈子 (京都大学国際高等教育院)

自由研究発表 I-4 Research Presentation Session I-4 6月28日(土) 9:15-11:45 S56

教師教育・教員問題

司会 牧 貴愛 (広島大学)

- 9:15 - 9:45 性教育をめぐる教師の葛藤
ー中国の非常勤講師を中心にー
李 世星 (名古屋大学大学院)
- 9:45 - 10:15 南アフリカ現職教員研修システムにおける授業研究の位置付け
小野 由美子 (大阪女学院大学)
- 10:15 - 10:45 教員の副業の実態
ーインドネシアにおける調査からー
前田 美子 (大阪女学院大学)
- 10:45 - 11:45 教師教育における多様性の位置づけに関する国際比較
ードイツ・フランス・アメリカを中心にー
○佐藤 仁 (福岡大学) ○伊藤 亜希子 (福岡大学)
○太田 知実 (明治大学) ○島埜内 恵 (白鷗大学)
青木 麻衣子 (北海道大学) 菊地 かおり (筑波大学)
高橋 望 (学習院女子大学) 田中 光晴 (文部科学省)
林 寛平 (信州大学大学院)

自由研究発表 I-5 Research Presentation Session I-5 6月28日(土) 9:15-11:45 S512

高等教育(1)

司会 岸本 睦久(文部科学省)

- 9:15 - 9:45 米国における大学生の帰属意識(Sense of Belonging)に関する研究レビュー
古畑 翼(筑波大学大学院)
- 9:45 - 10:15 欧米の大学における大学院生講師(GSI)制度
川村 真理(文部科学省科学技術・学術政策研究所)
- 10:15 - 10:45 英豪の大学における学生参画のフレームワークー批判的検証ー
○田中 正弘(筑波大学)
○杉本 和弘(東北大学)
- 10:45 - 11:15 スウェーデンの大学における内部質保証に参画する学生代表の養成
ー学生組合による学生代表ハンドブックの考察ー
武 寛子(愛知東邦大学)
- 11:15 - 11:45 第二次トランプ政権下の米国大学
ー危機を通して浮き彫りになる特質ー
福留 東土(東京大学)

自由研究発表 I-6 Research Presentation Session I-6 6月28日(土) 9:15-11:45 S513

ヨーロッパ地域

司会 長島 啓記(早稲田大学名誉教授)

- 9:15 - 9:45 イギリスにおける学校体育の実態
ーパブリックスクールと公立学校を事例としてー
天羽 礼(筑波大学大学院)
- 9:45 - 10:15 イギリスの後期中等教育における探究学習の実践に関する研究
ーExtended Project Qualification(EPQ)に着目してー
花井 渉(九州大学)
- 10:15 - 10:45 スウェーデンの基礎学校におけるインクルーシブ教育推進体制整備
是永 かな子(高知大学)
- 10:45 - 11:15 チェコの中高等教育機関におけるカリキュラムと教師の位置づけ
石倉 瑞恵(石川県立大学)
- 11:15 - 11:45 ドイツのギムナジウム上級段階と個別最適な学び
坂野 慎二(玉川大学)

自由研究発表 I-7 Research Presentation Session I-7 6月28日(土) 9:15-11:45 S514

国際教育・教育交流

司会 劉 靖 (東北大学)

- 9:15 - 9:45 教育輸出とナショナリズムについての一考察
ーフィンランドの教育輸出事業を事例としてー
西村 サヒ 教 (タンペレ大学)
- 9:45 - 10:15 IB 教員養成を修了した教員の批判的思考実践に関する研究
ー中高等学校への教育手法の波及効果の検討ー
木村 光宏 (岡山理科大学)
- 10:15 - 10:45 グローバル社会を生きる大学生の視点
ー彼らの捉える社会の背景にあるものー
○正楽 藍 (神戸大学)
杉野 竜美 (神戸医療未来大学)
- 10:45 - 11:15 「通域的な学び (translocal learning)」としての国際教育交流事業のデザイン
と評価ーMEL (monitoring, evaluation, and learning) から DEL (designing,
evaluation, and learning) へー
米原 あき (東洋大学)
- 11:15 - 11:45 “日本型 (的) 教育” の海外展開
ーエジプトでの大学生調査から見えてくるものー
上別府 隆男 (福山市立大学)

自由研究発表 I-8 Research Presentation Session I-8 6月28日(土) 9:15-11:15 S515

English Session (1) Southeast Asia (1)

Moderator: Keiichi Ogawa (Kobe University)

- 9:15 - 9:45 Trainer and Institutional Factors influencing Trainee Competency in TVET in Phnom
Penh, Cambodia
Chanly Dav (Hiroshima University)
- 9:45 - 10:15 Identifying Influencing Factors of Outstanding Secondary School Teachers in
Cambodia
Rathanakvoly Phuong (Hiroshima University)
- 10:15 - 10:45 Challenges of Teacher Educators in Supervising Student Teachers' Action Research
Sekkhapirath Set (Hiroshima University)
- 10:45 - 11:15 The Influence of Horizontal Education-job Mismatch on Wages of Vocational Senior
High School Graduates in Indonesia: Focusing on Gender Differences
Noa Yokogawa (Kobe University)

English Session (2) Africa

Moderator: Masayasu Sakaguchi (The University of Osaka)

- | | |
|---------------|---|
| 9:15 - 9:45 | Improvement on girls' schooling in Primary Education in Mali:
The cases studies of Regional Education of Authorities of Bamako right bank and Kati
Adama Keita (Naruto University of Education) |
| 9:45 - 10:15 | Formative Program Evaluation in Organizations Enhancing In-Service Training for
Primary School Teachers in Angola
Abreu Nadia Bengo (Kobe University) |
| 10:15 - 10:45 | Open Learning Ecology in STEM Education Towards a Decolonization Approach:
A Case of Two High Schools in Egypt
Eiman Ahmed Fouad Abdelghany Yassin (International Christian University) |
| 10:45 - 11:15 | Supporting Refugee Children Included in National Education System:
A Case Study from Rhino Camp Refugee Settlement in Uganda
Katsuki Sakaue (Kobe University) |

学会創設 60 周年記念イベント・トークイベント

フィルムカメラの時代の比較教育学

～写真を使ったプレゼンの先駆者・内海成治が遺した記録(仮)～



故内海成治氏(1946-2023)は、アフリカ・アジアの途上国におけるフィールドワークで熱心に写真を撮影されていたとのことです。また、それらをスライドプロジェクターで授業や発表・講演等のプレゼンでかなり早い時期から使われていました。今ではパワーポイントで当たり前になっていますが、内海氏はその先駆者でした。

今回、ご遺品のなかからフィルムやスライド・写真の一部をご遺族からご提供いただくことができました。貴重な記録をみなさんと見ながら、楽しい会になるようなイベントを企画しました。

ランチタイム・トークイベント

「フィルムカメラの時代の比較教育学

～写真を使ったプレゼンの先駆者・内海成治が遺した記録(仮)」

6月28日(土)11時50分～12時30分

場所: S 519

お弁当を召し上がりながらご参加ください
スライドプロジェクターを使用するときに
会場の照明を暗くすることがあります
お手元、お足元にご注意ください



司会: 森下稔(東京海洋大学)

解説: 澤村信英(大阪大学/甲南女子大学)・乾美紀(兵庫県立大学)

内海成治氏と親しくされていたお二人に、お話を伺いながら進めます



内海さん(左)と澤村さん(右)



内海さん(前列右から2人目)と乾さん(後列右から2人目)

東アジア地域(2)

司会 出羽 孝行(龍谷大学)

- 12:35 - 13:05 韓国の大学進学における「浪人」選択の探索的検討
ー経験者の語りを手がかりとしてー
西山 喜満主(京都大学大学院)
- 13:05 - 13:35 韓国の学校教育における「公共歴史(Public History)」実践の現状と可能性
朴 貞蘭(愛知大学)
- 13:35 - 14:05 韓国の小学校道徳科における人工知能教育の現状と方向性
チョン ソンウン(ソウル梧柳南小学校)
- 14:05 - 14:35 日台韓における社会人の博士課程進学者の動向
ー博士号取得者総数の拡大につながっているのかー
可部 繁三郎(福井工業大学)

高等教育(2)

司会 川村 真理(文部科学省)

- 12:35 - 13:05 セメスター留学の効果
ー学生の振り返りからの考察ー
西向 堅香子(帝京大学)
- 13:05 - 13:35 卒業留学生ネットワークの構築
ー国籍・専攻・受入れ方針の違いを超えたエンゲージメントの可能性ー
ジャルガルサイハン ジャルガルマー(京都大学)
- 13:35 - 14:05 世界諸国の高等職業教育の展開に関する考察
ー日中比較からその移行方法のモデル化を試みてー
張 潔麗(京都大学)
- 14:05 - 14:35 中国の学位制度の成立と変遷
ー後発国における制度の借用と移転ー
李 敏(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)

自由研究発表Ⅱ-3 Research Presentation Session II-3 6月28日(土) 12:35-14:35 S55

幼児教育

司会 池田 充裕 (山梨県立大学)

- 12:35 - 13:05 オーストラリアの幼児教育カリキュラムの変容
ー子どもの権利保障に着目してー
丹伊田 真央 (東京大学大学院)
- 13:05 - 13:35 就学前教育におけるコンピテンシー概念の認識と教育実践
ーケニアのカリキュラム改革を事例にー
八木 歩 (神戸大学)
- 13:35 - 14:05 ベトナムの保育者に求められる「ケア」の専門性に関する考察
門松 愛 (名古屋葵大学)
- 14:05 - 14:35 多文化社会における幼児教育と家庭・地域の連携
ーシンガポールの事例からー
李 霞 (追手門学院大学)

自由研究発表Ⅱ-4 Research Presentation Session II-4 6月28日(土) 12:35-14:35 S56

教育行政・教育経営

司会 佐藤 仁 (福岡大学)

- 12:35 - 13:05 中国における義務教育段階の「双減」政策の執行状況に関する一考察
ー瀋陽市の学校と校外教育機関の関係者に対するインタビュー調査を通してー
劉 海寧 (一橋大学大学院)
- 13:05 - 13:35 教育における国際認証の意義
ー教育・評価・研究に与える影響ー
伊藤 博 (名古屋商科大学)
- 13:35 - 14:05 米国カリフォルニア州における学校危機管理制度構造の解明
大西 健介 (共栄大学)
- 14:05 - 14:35 「塀の中の学校」による『塀』の外への合法的進出
ー非通信制チャータースクールの広域展開に関する事例研究ー
佐々木 司 (山口大学)

自由研究発表 II-5 Research Presentation Session II-5 6月28日(土) 12:35-14:05 S512

北アメリカ地域

司会 中島 千恵 (京都文教大学)

- 12:35 - 13:05 カナダ・ニューファンドランド・ラブラドール州における言語別教育委員会
制度の成立と展開 内田 圭佑 (倉敷芸術科学大学)
- 13:05 - 13:35 カナダにおけるカリキュラム改革の動向
ーオンタリオ州 2023 年改訂「英語」カリキュラムを中心にー
森本 洋介 (弘前大学)
- 13:35 - 14:05 カナダ・オンタリオ州の現職教員研修と反人種主義
児玉 奈々 (滋賀大学)

自由研究発表 II-6 Research Presentation Session II-6 6月28日(土) 12:35-14:05 S513

English Session (3) Primary and Secondary Education

Moderator: Miku Ogawa (Osaka University of Economics)

- 12:35 - 13:05 Applying for Test Theory for Analyzing Reading and Mathematics Achievement in
Cambodian Public Secondary Schools Vichara Lay (Hiroshima University)
- 13:05 - 13:35 Analysis of Learning-Adjusted Years of Schooling (LAYS) in Six Southeast Asia
Countries Htet Myet Aung (Kobe University)
- 13:35 - 14:05 Analysis of the Current State of ICT Education in Cambodian Secondary Schools
Runjing Guo (Kobe University)

自由研究発表 II-7 Research Presentation Session II-7 6月28日(土) 12:35-14:35 S514

English Session (4) Education and Economics

Moderator: Aki Yonehara (Toyo University)

- 12:35 - 13:05 An analysis of the influence of child labor on foundational literacy and numeracy skills
of 7-14 years old children in Bangladesh Mubin Khan Afridi (Kobe University)
- 13:05 - 13:35 An Analysis of Language of Instruction and Early Grade Students' Reading
Achievements in Primary Schools in Senegal Mamadou Ciss (Kobe University)
- 13:35 - 14:05 The Effect of Climate Change on Education System:Quantitative Evidence from
Extreme Heat in Cambodia Ryuto Minami (The University of Tokyo)
- 14:05 - 14:35 The Role of Education in Regional Mobility and Brain Drain across the South Pacific
Keiichi Ogawa (Kobe University)

大学の『国際化』を再考する

—モビリティがもたらすキャンパスの変容—

Rethinking the “Internationalization” of Universities:

How Mobility is Transforming Campuses

基調講演者：沖永 佳史（帝京大学理事長・学長）

「帝京大学における国際化の取り組み」

報告者：太田 浩（一橋大学）

「急速に変化する世界情勢下での大学国際化の課題と機会」

秋庭 裕子（東京学芸大学）

「大学の国際化を支える教職員のコンピテンシー」

吉田 和浩（広島大学）

「グローバルサウスの視点からの大学国際化」

指定討論者：杉村 美紀（上智大学）

司会者：江原 裕美（帝京大学名誉教授）

「××化（-nization）」は、本来、ある状態から別の、あるいは次の状態に向かう変化の過程を表す。しかし、日本の、そして世界の高等教育では、既に数十年にわたって、「国際化」が大学の教育の目的・方法として重視され、今も議論の俎上にあり続けている。大学の「国際化」が終止符を打つことがなく、それをめぐる議論が収束しないのはなぜか。本シンポジウムでは、多くの議論が積み重ねられてきた大学の「国際化」という主題を敢えて再び取り上げ、根底から、多角的に考察することで、その現在地を探ると同時に、確度の高い未来図を描く。

本シンポジウムでは、大会をホストする帝京大学の沖永佳史理事長・学長を基調講演者に迎え、同大学の「国際化」の取り組みをご紹介いただいた上で、比較教育学の研究者として、あるいは大学の教員として、様々な角度から「国際化」の現実に直面してきた会員を報告者、指定討論者、司会者として、この重要なテーマを広く深く議論していきたい。

自由研究発表 III-1 Research Presentation Session III-1 6月29日(日) 9:15-11:45 S53

教育と地域社会

司会 吉田 和浩 (広島大学)

- 9:15-9:45 ブラジルにおける公設民営学校の導入
ークリチバ市の試みとその課題ー 田村 徳子 (大阪公立大学)
- 9:45-10:15 人口減少・地域の過疎化対策に資する高等教育機関立地政策に関する
国際比較からの検討 ○芦田 明美 (名古屋大学)
吉田 夏帆 (兵庫教育大学)
- 10:15 - 10:45 オーストリアの高等教育におけるコミュニティ・エンパワーメント
ーウィーン・キャンパス専門大学に焦点を当ててー
田中 達也 (釧路公立大学)
- 10:45 - 11:15 「学校に行けない子どもたち」から「学校に行かない子どもたち」へ
ーラオス少数民族の村に見る中等教育への意識変化ー
乾 美紀 (兵庫県立大学)
- 11:15 - 11:45 地方における人口移動と高等教育機関の存在意義に関する一考察
○關谷 武司 (関西学院大学)
○江寄 那留穂 (愛知淑徳大学)

自由研究発表 III-2 Research Presentation Session III-2 6月29日(日) 9:15-11:45 S54

初等・中等教育

司会 武 寛子 (愛知東邦大学)

- 9:15-9:45 マラウイにおける初等教育への家計支出に関する女性の世帯内意思決定
石井 雄大 (神戸大学大学院)
- 9:45-10:15 デンマークの国民学校での評価の実践事例分析
ープロジェクト課題に対する教師の評価に焦点を当ててー
高橋 武志 (早稲田大学大学院)
- 10:15 - 10:45 学びと評価のマインドセット
ーデンマークを事例にー 市川 桂 (東京海洋大学)
- 10:45 - 11:15 ドイツの初等中等教育における数学的コンピテンシーの育成に関する一考察
ーことばの力の涵養という観点からー
立花 有希 (宇都宮大学)
- 11:15 - 11:45 カンボジア初等社会科授業の実践されたカリキュラムの分析
ーコンポンチュナン州 X 小学校の3名の授業を事例にー
守谷 富士彦 (四天王寺大学)

自由研究発表 III-3 Research Presentation Session III-3 6月29日(日) 9:15-11:45 S55

シティズンシップ

司会 渡邊 あや (津田塾大学)

- 9:15-9:45 「通識教育(Liberal Studies)」から「公民と社会発展」への差し替え
—香港は自立的学習習慣と批判的思考力の育成を止めたのか—
大和 洋子 (星槎大学)
- 9:45-10:15 国民国家を支える英雄像
—日本、ケニア、シリアの小学校社会科教科書の比較—
○小川 未空 (大阪経済大学)
ガラウィンジ山本 香 (上智大学)
- 10:15 - 10:45 デンマークの高校における多文化教育の試み
—移民ルーツをもつ生徒の包摂と葛藤— 原田 亜紀子 (東海大学)
- 10:45 - 11:15 社会・文化的格差を考慮した初年次教育
—フランス・パリ郊外地域の大学を事例に—
田川 千尋 (大阪大学)
- 11:15 - 11:45 フランスの市民性教育における生徒参加の多元化
—中学校生活評議会の機能に着目して— 京免 徹雄 (筑波大学)

自由研究発表 III-4 Research Presentation Session III-4 6月29日(日) 9:15-11:45 S56

教育の機会

司会 江原 裕美 (帝京大学名誉教授)

- 9:15-9:45 『ボリビアにおける児童労働』
—潜在的な児童労働が及ぼす教育を享受する機会への影響—
楠瀬 流永 (鳴門教育大学大学院)
- 9:45-10:15 チリの学校包摂法による格差是正効果とその評価
—公正性と「教育の自由」の観点から— 工藤 瞳 (慶應義塾大学)
- 10:15 - 10:45 ニュージーランドにおける難民の再定住に向けた一時的な支援
—マングレ難民再定住センターで大学が運営する難民出身者の教育に注目して—
柿原 豪 (新潟医療福祉大学)
- 10:45 - 11:15 ドイツにおける学校欠席 (不登校)
—家族・学校・福祉— 布川 あゆみ (東京外国語大学)
- 11:15 - 11:45 歴史から持続可能な未来へ
—知識コモンズとしての生涯学習をユネスコ報告書から捉える—
丸山 英樹 (上智大学)

自由研究発表 III-5 Research Presentation Session III-5 6月29日(日) 9:15-11:45 S512

ジェンダーとマイノリティ

司会 二井 紀美子(愛知教育大学)

- 9:15-10:15 東南アジアにおけるリバース・ジェンダー・ギャップの国際比較
ーローカルなまなざしにより読み解くー
○鴨川 明子(早稲田大学) ○服部 美奈(名古屋大学)
○久志本 裕子(上智大学) 市川 誠(立教大学)
○森下 稔(東京海洋大学) ○羽谷 沙織(立命館大学)
- 10:15 - 10:45 タイの移民学習センターを対象とした質保証体制
ーターク県の統括組織 NGO の取組ー 馬場 智子(大阪経済大学)
- 10:45 - 11:15 オーストラリア・クイーンズランド州におけるギフト教育
ー2校への訪問調査をもとにー 伊藤 駿(京都教育大学)
- 11:15 - 11:45 オーストラリア遠隔地先住民コミュニティにおける保護者の教育観
ー社会関係資本の視点からー 青木 麻衣子(北海道大学)

自由研究発表 III-6 Research Presentation Session III-6 6月29日(日) 9:15-11:45 S513

東南アジア地域(2)

司会 杉本 均(佛教大学)

- 9:15-9:45 学校の有効性を向上させる手段としての学校運営
ーPISA 2022 を用いたアジア5か国の比較分析ー
島田 健太郎(創価大学)
- 9:45-10:15 フィリピンにおける新制後期中等教育の変容
山本 陽葉(京都先端科学大学)
- 10:15 - 11:15 東南アジア大陸4か国のへき地校と教員ー予備的考察ー
○牧 貴愛(広島大学) ○千田 沙也加(中京大学)
○下田 旭美(福山平成大学) 関口 洋平(畿央大学)
- 11:15 - 11:45 マレー(ジャワ)イスラムにおける転地と改革運動
ー旅人たちの「比較教育」ー 西野 節男(名古屋大学名誉教授)

自由研究発表 III-7 Research Presentation Session III-7 6月29日(日) 9:15-11:45 S514

開発と教育

司会 小松 太郎 (上智大学)

- 9:15-9:45 国際教育協力アプローチの再検討
ー日本の実務者ナラティブからオルタナティブを探るー
○朝倉 隆道 (広島大学)
坂田 のぞみ (広島大学)
- 9:45 - 10:15 ベトナム音楽科カリキュラムにおける「日本型」器楽教育展開の背景
ー教育のドイモイ、EDU-Port、グローバル言説の連関ー
○関口 洋平 (畿央大学)
興津 妙子 (大妻女子大学)
- 10:15 - 10:45 スリランカにおける ESD
ーグリーンユース・コミュニティ形成事業に着目してー
神田 和可子 (聖心女子大学)
- 10:45 - 11:15 アフリカの教育政策における海外援助機関の役割
隅田 姿 (広島修道大学)
- 11:15 - 11:45 教育におけるポジティブ・デヴィアンス研究
ーウガンダ農村部における事例研究結果からー
西村 幹子 (国際基督教大学)

自由研究発表 III-8 Research Presentation Session III-8 6月29日(日) 9:15-11:15 S515

English Session (5) Teacher Education, Teacher Issues

Moderator: Wataru Hanai (Kyushu University)

- 9:15-9:45 How Do Music Teachers Reflect on Their Learning Experiences of Music Practicals at the National College of Education in Sri Lanka?:
In Relationship to Teaching Perspectives
○Kalani Nimeja Rangani Nawurunnage (Hiroshima University)
Shin Ito (Hiroshima University)
- 9:45 - 10:15 Exploring the Personnel Administration System of Teacher Educators in Laos
Khampheng Sengsoulintha (Hiroshima University)
- 10:15 - 10:45 Teachers as Lifelong Learners: A Qualitative Investigation in Three Small Islands
Development States
Mariana Coolican (Kobe University)
- 10:45 - 11:15 Reforming teacher preparation in Cambodia:
Reform impacts on teacher professionalism
Takayo Ogisu (The University of Tokyo)

English Session (6) East Asia

Moderator: Yoshikazu Ogawa (Hiroshima University)

- | | |
|---------------|---|
| 9:15-9:45 | The Impact of Family Island Exchange Program on the Parents and Children:
A Case of Ama Town

Kelroy Kirkland Brown (Hiroshima University) |
| 9:45 - 10:15 | An Analysis of the Intercultural Communication Competence of Chinese Overseas
Students
Jiling Yao (Kobe University) |
| 10:15 - 10:45 | Developing Global Citizenship at Universities in Japan:
Reconsidering Campus Diversity

Lauren Noelani Nakasato (Shinshu University) |
| 10:45 - 11:15 | Building an Ecosystem of Quality Education in China's Nine-Year Compulsory
Education Schools: Diversity and disparity in the case of Chengdu
Jing Liu (Tohoku University) |
| 11:15 - 11:45 | Assessing the Goals of Japanese Overseas Development Assistance in Southeast Asian
Higher Education: Examining the Cases of Indonesia, Malaysia, Vietnam and the
AUN/SEED-Net Program
○Patrick Naoya Shorb (Kansai University of International Studies)
Satoshi Ozeki (Miyazaki University) |

Book Talk Session I 東信堂

1. セッション趣旨

東信堂は1985年に創業し、高等教育と比較教育学の出版から始め、比較教育学会の学会誌を1988年7月の14号から刊行してまいりました。当時のテーマは『教育改革と比較教育学』です。学会誌は年1回刊行でしたが、次第に学会員が増え掲載する論文も増えたことで、32号(2006年)から年2回、2月と7月刊行となりました。

この間、『日本比較教育学会 40年の歩み』(2004年6月)、『比較教育学事典』(2012年6月)、比較教育学の体系的テキストとして、石附実編『比較・国際教育学』(1996年4月)、馬越徹『比較教育学—越境のレッスン』(2007年6月)、山田肖子・森下稔編『比較教育学の地平を拓く』(2012年2月)等、グローバル化時代の転換期に比較教育学学会に依拠して書籍を刊行してきました。今後も各国の幼児、初等・中等教育から高等教育まで幅広く刊行するとともに、各国の教育の実態や比較教育学の理論化の図書を刊行していきます。

今回のブックトークは4回目ですが、以下の小社刊行の3冊の紹介と本づくりのプロセスで感じていたことなどを語って皆様と共有し、新たな道を見出したいと思います。この機会は著者と読者、そして出版社の三者交流を深める場としても設けられています。テーマの誕生から執筆・出版まで、ご興味ある方は奮ってご参加ください。

2. 発表者

- ・小川啓一・野谷優編著『世界で花開く日本の女性たち—国際機関で教育開発に携わるキャリア形成』(2024年12月刊・A5判・264頁・本体2,300円)
○八木 歩・小川 啓一(神戸大学)
- ・R・L・ガイガー著、原圭寛、間篠剛留、五島敦子、小野里拓、藤井翔太、原田早春、小林尚矢訳『第二次世界大戦後のアメリカ高等教育—アメリカ高等教育史II』(2024年3月刊・A5判・528頁・本体6,400円)
原 圭寛(昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部)
- ・神内陽子著『インドネシアの少年非行と教育—国家・慣習・宗教からのアプローチ』(2025年4月刊・A5判・548頁・本体8,900円)
神内 陽子(名古屋大学)

*後日追って発表要旨を掲載します。

*発表の順番は未定です。

*学会大会開催中は書籍販売のブースにて弊社も出展しております。あわせてご利用ください。

Book Talk SessionⅡ 明石書店

明石書店は、1978年の創業以来、人権の尊重を基本理念とし、社会正義と人権の確立、マイノリティの立場に立ちつつ、思想・歴史・社会・政治・経済・文化、在日・新来外国人、障害者、福祉、戦後補償、教育、ジェンダーなど、常に考えていかなければならないテーマについて、より広い視野をもった書籍を出版しています。

このたびのBook Talk Sessionでは、明石書店より刊行いたしました学会会員さまの近刊図書につきまして、著者ご自身による図書の紹介や本作りの経験談などをお話いただき、研究成果の普及としての出版について、会員みなさまとの情報共有の機会となりますことを願っております。お昼時間の短い時間ではございますが、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

プログラム

Introduction：明石書店 編集部 安田 伸

出版社紹介・出版手続・本作りについて

Session 1 Talk：鴨川 明子（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

服部 美奈（名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授）

吉田 翔太郎（山梨大学アドミッションセンター 特任助教）

紹介図書『東南アジアのリバーシ・ジェンダー・ギャップ

——進む女性の高学歴化は何を意味するのか』

[鴨川明子／服部美奈編著、2025年6月刊、ISBN978-4-7503-5950-2]

Session 2 Talk：興津 妙子（大妻女子大学文学部 教授）

紹介図書『「教育輸出」を問う—日本型教育の海外展開 (EDU-Port) の政治と倫理』

[高山敬太／興津妙子 編著、2024年9月刊、ISBN978-4-7503-5810-9]

Session 3 Talk：森 いづみ（中央大学経済学部 准教授）

紹介図書『国際学力調査からみる日本の教育システム

——教育による〈効果〉と〈格差〉の計量分析』

[森いづみ 著、2025年2月刊、ISBN978-4-7503-5871-0]

Session 4 Talk：二井 紀美子（愛知教育大学教育学部 教授）

紹介図書『海外の教育のしくみをのぞいてみよう

——日本、ブラジル、スウェーデン、イギリス、ドイツ、フランス』

[園山大祐 編著、2024年12月刊、ISBN978-4-7503-5857-4]

◎明石書店 出展ブース

学会会期中に、大会会場にて展示・販売ブースを設置します。是非ともこの機会にお立ちより下さい。

若手研究者交流会 Exchange Meeting for Young Researchers

1. 概要

若手ネットワーク委員会 (Y-Net) は、今年も、日本比較教育学会大会において「若手研究者交流会」を開催いたします。昨年大会では60名以上にご参集いただき、対面での交流を楽しみました。

学部生・大学院生の皆さん、若手研究者の皆さんが、全国にネットワークを広げるとともに、研究の悩みやだいご味を共有したり、情報交換したりする場になればと考えております。

研究に悩んでいる方、フィールド経験を共有したい方、初めての学会で緊張している学部生・大学院生、比較教育学フレンドを作りたい方など、どなたも大歓迎です。奮ってのご参加をお待ちしております！！

【日 時】2025 年 6 月 29 日 (日) 11:50-12:30

【場 所】S519

2. 参加申込・参加方法

当日の飛び込み参加も大歓迎いたしますが、参加人数の見込みを把握しておきたく、参加を希望される方は、下記 Google Form リンクより事前登録をいただけますと幸いです。

⇒申し込みフォーム <https://forms.gle/tZRmWJLZZ7NbL2jQA>

3. お問い合わせ

主催：若手ネットワーク委員会 (Y-Net) E-mail: jces.ynet@gmail.com

〈企画・運営：若手ネットワーク委員会 (Y-Net)〉

学生会員委員

今泉 尚子 (早稲田大学大学院)	田島 夕貴 (東京大学大学院)	松田 華織 (神戸大学大学院)
宮村 侑樹 (大阪大学大学院)	吉岡 香奈 (東京大学大学院)	

委員

小川 未来 (大阪経済大学)	小原 優貴 (東京大学)	鴨川 明子 (早稲田大学)
神内 陽子 (名古屋大学)	須藤 玲 (東京大学)	橋本 拓夢 (大阪大学)
守谷 富士彦 (四天王寺大学)	八木 歩 (神戸大学)	吉田 翔太郎 (山梨大学)

自由研究発表 IV-1 Research Presentation Session IV-1 6月29日(日) 12:35-14:35 S53

紛争と教育

司会 澤野 由紀子(聖心女子大学)

- 12:35-13:05 武力紛争と大学生
ーカイロに避難したスーダン人学生の葛藤と母国貢献の展望ー
黒川 智恵美(上智大学)
- 13:05 - 13:35 戦時下におけるイスラエル「市民教育・共生本部」作成資料の分析
飛田 麻也香(広島商船高等専門学校)
- 13:35 - 14:05 タイ国境のミャンマー難民キャンプにおける成人学習
三宅 隆史(立教大学)
- 14:05 - 14:35 シリア政変後の難民教育の行方
ーヨルダンにおける関係者の意識調査を通じてー
○小松 太郎(上智大学)
○岩間 縁(ワールド・ビジョン・ジャパン)

自由研究発表 IV-2 Research Presentation Session IV-2 6月29日(日) 12:35-14:35 S54

職業・技術教育

司会 京免 徹雄(筑波大学)

- 12:35-13:05 キルギス共和国とタジキスタンにおける中等職業教育改革の比較
ーSDG4 達成の視点からー
タスタンベコワ クワニシ(筑波大学)
- 13:05 - 13:35 職業教育制度の比較検討
ーフィンランド、イギリス、日本を例としてー
大谷 杏(福知山公立大学)
- 13:35 - 14:05 カナダ BC 州の高等教育機関における学生向けキャリア支援プログラムに
関する研究
熊谷 朋子(北陸大学)
- 14:05 - 14:35 技能実習生の入国後講習ー現状と課題ー
櫻井 里穂(広島大学)

自由研究発表 IV-3 Research Presentation Session IV-3 6月29日(日) 12:35-14:35 S55

多文化教育

司会 児玉 奈々 (滋賀大学)

- 12:35-13:05 ニュージーランドにおける Culturally Responsive Teaching の特質
ー教育の包摂性と公正性に向けてー 奥田 久春 (三重大大学)
- 13:05 - 13:35 イングランドにおける EAL 学習者への継続的な支援
ーハンプシャー州の事例からー 小山 晶子 (東海大学)
- 13:35 - 14:05 ポルトガル各地の公立学校における移民生徒の受け入れ事例
ー言語支援を中心にー 二井 紀美子 (愛知教育大学)
- 14:05 - 14:35 外国人保護者のメンタルヘルスに関する一考察
ー同郷者組織の役割に注目してー 中島 千恵 (京都文教大学)

自由研究発表 IV-4 Research Presentation Session IV-4 6月29日(日) 12:35-14:35 S56

高等教育 (3)

司会 福留 東土 (東京大学)

- 12:35-13:05 小国における政権交代が大学にもたらす影響
ーマルタ共和国ミントフ政権とフェネク・アダミ政権を事例としてー 水谷 耕平 (東京大学大学院／青山学院大学)
- 13:05 - 13:35 大学入試におけるアフーマティブ・アクションの動向と論点再考：
格差是正とその限界 安 梓澄 (東京大学大学院)
- 13:35 - 14:05 米国の高等教育における教育機会プログラム
ーカリフォルニア州3大学の事例からー 萩原 絵理香 (東京大学)
- 14:05 - 14:35 米国高等教育におけるオンライン学修支援
ーサザン・ニューハンプシャー大学に注目してー 五島 敦子 (南山大学)

自由研究発表 IV-5 Research Presentation Session IV-5 6月29日(日) 12:35-14:35 S512

南アジア地域

司会 日下部 達哉 (広島大学)

- 12:35-13:05 インドにおける障害のある子どもの教育と教員のインクルーシブに対する認識
中川 葵 (神戸大学大学院)
- 13:05 - 13:35 インドにおける州内移動労働者の家庭と学校の文化差
ー初等学校が自主的に行う支援の事例からー
宮村 侑樹 (大阪大学大学院)
- 13:35 - 14:05 タミル・ナードゥ州における南インドヒンディー語普及協会の役割
ー教員養成課程に所属する学生の視点からー
小島 美月 (京都大学大学院)
- 14:05 - 14:35 インド人学生の留学先選択志向と受入国の社会環境
塩山 皐月 (東京大学)

自由研究発表 IV-6 Research Presentation Session IV-6 6月29日(日) 12:35-14:35 S513

アフリカ地域

司会 川口 純 (慶應大学)

- 12:35-13:05 生徒の視点から見たウガンダ中等学校教師に求められる役割
ー寄宿制を採用しているカサンダ県 A 中等学校の事例を通してー
横山 穂佳 (名古屋大学大学院)
- 13:05 - 13:35 ケニア農村部における学校教育の公共性とアソシエーション的役割
ー教員および保護者の視点からー
山口 菜々果 (大阪大学大学院)
- 13:35 - 14:05 ケニアのカリキュラム改革におけるインクルーシブ教育のゆくえ
ー障がいのある児童に着目してー
大場 麻代 (帝京大学)
- 14:05 - 14:35 児童の学力変化の分析
ーマラウイ、ガーナ、ウガンダを例として
谷口 京子 (広島大学)

自由研究発表 IV－7 Research Presentation Session IV-7 6 月 29 日（日） 12:35-14:35 S514

English Session (7) Southeast Asia (2)

Moderator: Takayo Ogisu (The University of Tokyo)

- 12:35-13:05 Access Struggles of Minority Teacher Educators in Bangladesh:
Bureaucracy or Racial Disparity!
Md Ahamedl Azam (Hiroshima University)
- 13:05 - 13:35 Feedback from Graduates on School Principal Leadership Programs in Cambodia
Sovath Seng (Hiroshima University)
- 13:35 - 14:05 Continuity Amid Crisis: Reimagining Preschool Teachers' Roles in Supporting School
Transitions in Post-COVID Laos
Xiamdong Meng (Hiroshima University)
- 14:05 - 14:35 Family Engagement in Caregiving Activities and Child Development Outcomes in
Vietnam: A Fixed-effects Analysis
○Jean-Baptiste Mohamadou Bassirou Sanfo (University of Hyogo)
Keiichi Ogawa (Kobe University)

自由研究発表 IV－8 Research Presentation Session IV-8 6 月 29 日（日） 12:35-14:05 S515

English Session (8) Citizenship

Moderator: Hideki Maruyama (Sophia University)

- 12:35-13:05 How do children learn to be nationals in Syria and Kenya?:
Comparative analysis of primary school textbooks
○Kaoru Ghalawinji-Yamamoto (Sophia University)
Miku Ogawa (Osaka University of Economics)
- 13:05 - 13:35 How Do We Deal With 'Cultures'?:
A 2024 Case Study of School Education in the Republic of South Africa
Masayasu Sakaguchi (The University of Osaka)
- 13:35 - 14:05 Fostering Responsible Internationalization in Higher Education:
Insights from Global Leadership Programs in Japan
○Yuki Ohara (The University of Tokyo)
○Ryu Jasmine (The University of Tokyo)

ボーダースタディーズが照らし出す国境・境界地域の比較教育

司 会：鈴木 賀映子（帝京大学） 森下 稔（東京海洋大学）

報告者：スネート カンピラバーブ（名古屋大学） 羽谷 沙織（立命館大学）

タイと隣接諸国の国境

劉 靖（東北大学） 楠山 研（武庫川女子大学）

中国と隣接諸国・地域との国境／境界

市川 桂（東京海洋大学） 鈴木 賀映子（帝京大学）

アメリカ＝メキシコ国境

渡邊 あや（津田塾大学） 澤野 由紀子（聖心女子大学）

ロシア＝フィンランド国境

指定討論者：川久保 文紀（中央学院大学・非会員） 平田利文（大分大学名誉教授）

趣旨説明

ロシアのウクライナ侵攻、アメリカ・トランプ政権による適性外国人法の適用など、領土と国境をめぐる国際情勢は日々様相を変えている。比較教育学において国境・境界地域は、中心的でない特異的な事象であるとしてあまり焦点が当てられてこなかったが、2018年、学会科研「境界研究の分析法を用いた国境・境界地域における基礎教育に関する国際比較研究」が立ち上がり、その成果は『比較教育学研究』第60号特集「比較教育学におけるボーダースタディーズの可能性」にまとめられている。その後、2022年以降、課題をさらに焦点化した科研「越境通学児童の実証的比較研究—国境の透過性および国民形成との関係を中心に—」によって、継続されている。

本研究の開始から6年が経過し、国境・境界地域はコロナ禍や紛争、政権交代などの変化を経て、さらなる「分断」や「干渉」「接続」が顕在化している。これらの動きを教育の視点からとらえると、政策的枠組みを超えて周縁地域や隣接国へじわりと浸透し、各地域固有の文脈による多様な変容が確認できる。今回の課題研究Ⅰでは、（１）タイと隣接諸国の国境（２）中国と隣接諸国・地域の国境・境界（３）アメリカ＝メキシコ国境（４）ロシア＝フィンランド国境を事例に、こうした教育の動態が現地の文脈やニーズに沿いながら、国境・境界地域独自のかたちで柔軟に展開されていることを報告する。これらの報告に対して、指定討論者として川久保文紀氏(中央学院大学)をお招きし、ボーダースタディーズの立場から、そして平田利文会員(大分大学名誉教授)には長年にわたって比較教育学に携わってきた立場から、比較教育学におけるボーダースタディーズについて討論をお願いする。

国境や境界地域は、固定的で普遍的であるにとらえられることが多い。しかし実はそうではなく、地図上に示される「ハードな国境」だけでなく文化や習慣、思想に基づいて形成される「ソ

フトな国境」も存在し、国家の意図やあるいはそこに生活する人々の営為によって、常に描き直されているのである。そして、教育が国境・境界地域へ浸潤していくことによって、人々のアイデンティティや帰属意識といった内面的な構造にも深く関わっていることが示唆される。

指定討論者：川久保文紀（かわくぼふみのり）中央学院大学法学部教授、副学長。専門は、現代政治学、ボーダースタディーズ。2008 年中央学院大学法学部専任講師、2016 年北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター「境界研究」共同研究員、2019 年サンディエゴ州立大学政治学部客員研究員、などを経て 2022 年より現職。現在の研究課題は、米国の国境の壁をめぐる政治、日本の境界地域の振興政策。

本発表は、「境界研究の分析法を用いた国境・境界地域における基礎教育に関する国際比較研究」（基盤研究(A)18H03659）および「越境通学児童の実証的比較研究－国境の透過性および国民形成との関係を中心に－」（基盤研究(B) 22H00974（23K22245 に移行））の共同研究の成果の一部である。

つながる時代の比較教育学を問い直す(2)

—教育実践とのつながりを考える—

司会者：京免 徹雄（筑波大学） 佐藤 仁（福岡大学）

報告者：梅宮 直樹（上智大学） 国際教育開発の経験から

柿原 豪（新潟医療福祉大学） 学校現場の経験から

渡辺 恵子（武蔵野大学） 教育行政・政策の経験から

指定討論者：荻巣 崇世（東京大学）

趣旨説明

今期の研究委員会は、3年間の研究テーマとして「つながる時代の比較教育学を問い直す」を設定し、学問としての比較教育学を多角的に議論していく。

近年、様々な学問領域において、学術研究の社会的有用性が議論されている。科学技術・学術政策が進展する中、研究成果をいかに社会に還元できるかが問われ、研究成果の社会的インパクトの重要性も指摘されている。それは、「何の役に立つのか」という角度から学術研究のあり方が問われていることを意味する。もちろん、比較教育学も例外ではない。

比較教育学は、その歴史的経緯から、教育実践への貢献という性格を有してきた。ここで言う教育実践とは、学校における授業のみならず、教育政策、教育開発、教師教育、国際教育交流等、広範にわたる。日本の比較教育学に目を向ければ、例えば「理論とフィールド」や「地域研究と開発研究」といった枠組みを通して、比較教育学と教育実践とのつながりのあり方が問われてきた。ただし、それは論者によって様々な解釈されるため、答えの出ないもの、そして立場によって異なる多様な姿を見せるものとなっている。それゆえに、多様な姿を共有しながら、比較教育学と教育実践のつながりの内実を考え続けること、そしてそうした場を作ることが学会としての重要な役割になる。

そこで、本課題研究では、学術研究と社会とのつながりが求められている現在において、改めて比較教育学と教育実践のつながりの意味や可能性を考えてみたい。特に、比較教育学は教育実践にどう貢献できるかという点にとどまらず、教育実践が比較教育学に何を期待していて、何を求めているのかという点に着目する。これにより、そもそも比較教育学とつながる教育実践とは何か、比較教育学と教育実践はどのようにつながるのか、そして比較教育学と教育実践はどのようなスタンスで相手とつながるのかといったように、比較教育学と教育実践の両方の視点からつながりを検討することができる。それは、学術研究の視点に立った一方向的な議論を超えて、比較教育学と実践のつながりを考える新たな視座を提供するものとなる。



インドネシアの少年非行と教育

—国家・慣習・宗教からのアプローチ
神内陽子著

A 5・548頁・9790円

群島国家かつ多民族・多宗教である東南アジアの大国インドネシアの少年非行をめぐる諸問題を切り口とし、国家法・慣習法・イスラーム法という多元的な法が交差する場で展開する非行の実態と、少年の更生にかかわる人々の教育的営み、さらに更生する少年たちの姿を描いた挑戦的研究の書！



世界で花開く日本の女性たち

—国際機関で教育開発に携わるキャリア形成
小川啓一・水野谷優編著

A 5・264頁・2530円

出産や育児等によるキャリア中断もある中、女性はいかに国際機関への就労を目指し準備を行い、いかなるワークライフバランスで働いているのか。ユネスコ、OECD、GPE、世銀、ユニセフ等、国際教育開発で活躍する日本人女性 11 名の生き生きとした実体験と若者に向けたメッセージを集めたリアルな書。



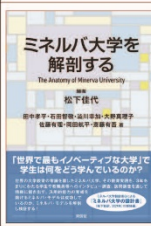
第二次世界大戦後のアメリカ高等教育

—アメリカ高等教育史Ⅱ

A 5・528頁・7040円

R・L・ガイガー著 原圭寛、間篠剛留、五島敦子、小野里拓、藤井翔太他訳

WWⅡの冷戦構造下、スプートニクによりソ連の先進性を見せつけられた衝撃によってアメリカの高等教育界は改革を迫られた。Ⅱ巻目にあたりⅠ巻『アメリカ高等教育史』(2023)の索引も収録。Ⅰ巻Ⅱ巻合わせてアメリカ高等教育の400年間の制度と社会を俯瞰できる壮大なドラマ、比類なき通史。



ミネルバ大学を解剖する

松下佳代編著 『ミネルバ大学の設計書』姉妹書

A 5・328頁・3520円

世界の大学教育の常識を覆したミネルバ大学。その設立から十数年経った今、実際はどうか。本大学の教育実践を3年にわたり、大学目標はじめ、カリキュラム、学習評価、授業、課外活動、教職員、学生の学び等、訪問・インタビュー調査を通じて、「設計書」を検証し、日本の大学へのインパクトを解明する。

「世界で最もインパクトのある大学」で学生生活を送っているのだから、大学教育の質をどう評価しているのか、という問いに答える。本書は、ミネルバ大学の教育実践を3年にわたり、大学目標はじめ、カリキュラム、学習評価、授業、課外活動、教職員、学生の学び等、訪問・インタビュー調査を通じて、「設計書」を検証し、日本の大学へのインパクトを解明する。

大学教育の質的研究法

S・R・ジョーンズ、V・トレス、J・アルミニオ著 山田嘉徳・河井亨・新見有紀子翻訳
A 5・472頁・5280円

高等教育界を取り巻く複雑性と特異性の実像に迫り、質的調査研究の土台となる諸理論、データ収集・分析手法を網羅的に丁寧に解説。初学者へ必要な教科書であり、教育研究者が担う倫理的・社会的責務も問う教育研究に携わる者の必読書。

戦後台湾の英語教育

教科書にみる「文学性」と「政治・社会性」
平井清子著 A 5・416頁・7920円

戦後台湾の英語教育の変遷を膨大な英語教科書を分析し、社会背景、教育政策や教育課程と関連づけて描いた画期的な学際的研究。教科書から文学性と政治・社会性の二大特長を抽出し、豊かな人間性と思考力を育てながら英語運用力を育成する実相を明らかにする。

アメリカ高等教育史

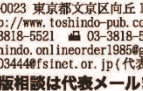
R・L・ガイガー著 原圭寛・間篠剛留・五島敦子・小野里拓・藤井翔太他訳
A 5・528頁・7040円

高等教育界を取り巻く複雑性と特異性の実像に迫り、質的調査研究の土台となる諸理論、データ収集・分析手法を網羅的に丁寧に解説。初学者へ必要な教科書であり、教育研究者が担う倫理的・社会的責務も問う教育研究に携わる者の必読書。

アメリカの体育カリキュラム設計論

デズモンド・W・マクドナルド著
A 5・320頁・3740円

アメリカの体育カリキュラム設計論。本書は、アメリカの体育カリキュラム設計論を、その歴史・理論・実践の観点から、体系的に解説する。本書は、アメリカの体育カリキュラム設計論を、その歴史・理論・実践の観点から、体系的に解説する。



東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
HP <http://www.toshindo-pub.com>
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
✉ toshindo_onlineorder1985@gmail.com
🌐 tk2034440fsinet.or.jp (代表)

* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

BOOK TALK SESSION 企画図書

東南アジアのリバース・ジェンダー・ギャップ

進む女性の高学歴化は何を意味するのか

鴨川明子、服部美奈 編著

◎2970円

東南アジア諸国では、高等教育段階において女性が優位となるリバース・ジェンダー・ギャップ現象が進行している。「女性の高学歴化の光と影」「男子はどこへ問題」「ジェンダー二元論を懐疑し、超える」といったテーマを軸に、この新しい現象の現状やその背景要因の解明を試みる。



「教育輸出」を問う

日本型教育の海外展開(EDU-Port)の政治と倫理

高山敬太、興津妙子 編著

◎4950円

教育政策や実践が国境を越えて参照され、取引される時代の到来は何を意味するのか。官民連携による教育輸出事業の政策過程について、関係者への綿密な聞き取り調査と政策文書の分析をもとに実証的な検証をすすめ、グローバル教育移転研究の新たな地平を切り拓く。



海外の教育のしくみをのぞいてみよう

日本、ブラジル、スウェーデン、イギリス、ドイツ、フランス

園山大祐 編著 中丸和、二井紀美子、林寛平、植田みどり、濱谷佳奈 ほか著

◎3300円

幼児教育から高等教育までの教育制度や学校事情について、執筆者による現地での体験やエピソードも交えて、疑問に答える形で紹介する。



国際学力調査からみる日本の教育システム

教育による「効果」と「格差」の計量分析

森いづみ 著

◎5940円

国際学力調査などや社会調査の計量的な分析を通し、教育システムや学校環境、教員の教育実践や家庭の社会階層などの要因に着目し、日本の教育システムの特徴、とくに生徒の社会経済文化的背景が学力や意欲におよぼす影響について、国際的な視点から解明する。



おすすめの近刊図書と話題書

ことばの教育の力

〈自由の相互承認〉の実質化をめざして

佐藤慎司、稲垣みどり、苦野一徳 編著

◎2970円

何のためにことばを教えているのか、ことばの教育にはどんな力があるのか? 公教育の本質を〈自由の相互承認〉の原理におき、それをことばの教育・研究や言語政策がどう扱ってきたのかを検証した上でこの原理をどう実質化していけるのかを論じる。



学校の時数をどうするか

現場からのカリキュラム・オーバーロード論

大森直樹 編著 永田守、水本王典、水野佐知子 著

◎2640円

教育課程の内容過多により教育現場にかかる大きな負担。この問題は資質・能力重視の内容精選で解決されるのか。1977年から2017年の5つの標準時数と学習指導要領が子どもに及ぼした影響を現場から検証し、新型コロナの教訓もふまえた対案を提示する。



国際高等教育

教育・研究の展開をみえる

花田真吾 著

◎3300円

国家の枠を越えた国際理解、国際協力、そして国際平和への貢献を目指す国際高等教育。その教育・研究の展開に関するこれまでのあゆみを初学者向けに体系的に紹介し、今後の展望をみえる。



「多様な教育機会」をつむぐ

ジレンマとともにある可能性【公教育の再編と子どもの福祉①】

森直人、澤田稔、金子良事 編著

◎3300円

1巻は「ジレンマ」と「緩さ」を公教育再編と子どもの福祉に不可欠なボジティブな要素と捉える。なかでも、II部の実践者による「多様な教育機会」の省察が本書の中心であり、I部はそれらの共通性を探り、III部はRED研と教育機会確保法について振り返る構成をとる。



スウェーデンの優しい学校

FIKAと共生の教育学

戸野塚厚子 著

◎2420円

スウェーデンの教育システムと学校文化を楽しむ一冊。スウェーデンの「共生」教育カリキュラムに焦点を当て、その独自性を著者の20年にわたる現地調査から得られた知見で紐解く。日本の教育との比較を通して教育のあり方について新たな視点を提供。



「多様な教育機会」から問う

ジレンマを解きほぐすために【公教育の再編と子どもの福祉②】

森直人、澤田稔、金子良事 編著

◎3300円

2巻は様々な支援の場に関わってきた実践者が語る「多様な教育機会」のジレンマを受け止めるところから問いを立て、その解を試みた研究論文を収録。本書は、継続的に議論と模索を共有してきた研究者が各々の専門に基づき、経験を考察に反映させた論考から成る。



現代韓国の教育を知る 隣国から未来を学ぶ

松本麻人、石川裕之、田中光晴、出羽孝行 編著

◎2860円

SDGs時代のインクルーシブ教育

グローバルサウスの挑戦 川口純 編著

◎3960円

多文化ファシリテーション 多様性を活かして学び合う教育実践

秋庭裕子、米澤由香子 編著

◎2640円

子ども若者の権利と政策③

子ども若者の権利と学び・学校

末富芳 編著 末富芳、秋田喜代美、宮本みち子 監修

◎2970円

異文化間教育ハンドブック ドイツにおける理論と実践

イングリット・ゴッホ、グレン・B・ゲルグ、マリアンネ・グリューガー・ボラツ、ドロイト・レンギエル、ウーグ・ザンク 編著 立花有希、佐々木優香、木下江美、クラインハーベル美穂 訳

◎16500円

諸外国の教育動向 2023年度版

文部科学省 編著

◎3960円

公正と包摂をめざす教育

OECD「多様性の持つ強み」プロジェクト報告書

経済協力開発機構(OECD) 編著 佐藤仁、伊藤亜希子 監訳

◎5940円

日本の移住労働者 OECD労働移民政策レビュー：日本

経済協力開発機構(OECD) 編著 是川夕、江場日菜子 訳

◎3960円

OECDジェンダー平等白書

インターセクショナルな主流化アプローチによる格差解消をめざして

経済協力開発機構(OECD) 編著 濱田久美子 訳

◎7480円

図表でみる教育 OECDインディケーター(2024年版)

経済協力開発機構(OECD) 編著

◎9460円

明石書店

〒101-0021

東京都千代田区外神田6-9-5

TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

https://www.akashi.co.jp/

*図書目録送呈

*価格税込

探究の知、 発見の知、 創造の知。

帝京新書

「平和宣言」を英語で読む
論の経営学、倫の経営学
「頑張る」「頑張れ」はどこへいく
シン・経済学
ミステリー作家漱石の謎を解く
「教育改革」の改革
避災と共災のすすめ
一九三〇朝鮮人生徒の日記
デザインのGENTEN

帝京選書

未来を拓く「自分流」研究
「海」から読みとく歴史世界

帝京大学シルクロード叢書

001 シルクロードのコイン 1
002 シルクロードのコイン 2
003 碎葉史研究
004 ソグド語文書を読む 1 〈近日刊行〉

テキスト

チームで学ぶ 医療コミュニケーション
コミュニケーション日本語 新装版 1・2・3 〈非売〉

アートブック

パリ情景 動かぬ時の扉 辻仁成

帝京大学出版会

<https://www.teikyo-service.com/press/>



日本比較教育学会 第 61 回大会準備委員会

The 61st Annual Conference Organizing Committee, Japan Comparative Education Society

委員長： 山崎 直也 (Naoya Yamazaki, Chairperson)

委員： 市川 桂 (Katusra Ichikawa)

江原 裕美 (Hiromi Ehara)

大場 麻代 (Asayo Ohba)

工藤 瞳 (Hitomi Kudo)

黒川 智恵美 (Chiemi Kurokawa)

鈴木 賀映子 (Kaeko Suzuki)

西向 堅香子 (Mikako Nishimuko)

日暮 トモ子 (Tomoko Higurashi)

(氏名 50 音順)

発行：日本比較教育学会第 61 回大会準備委員会

〒192-0395 東京都八王子市大塚 359

帝京大学

山崎直也（大会事務局長）研究室気付

E-mail : jces61tu@gmail.com

Published by The 61st Annual Conference Organizing Committee

Japan Comparative Education Society

C/O Naoya Yamazaki (Chairperson)

Teikyo University

Hachioji Campus, 359 Otsuka, Hachioji-city, Tokyo, Japan 192-0395

E-mail : jces61tu@gmail.com
